別記(一)

指令 第十八號 九月十八日 東交爭議首腦部 印

(年前十一時中刊)

文部御中

一、乘車に際し親切丁寧を第一とし市民の輿論に答へよ

十二日間のゼネストは反動市長局長を完全に叩きつけ暴圧案の保留を余義なくせしめ茲に一時ストを休止したのである。此のスト一時休止は最後の勝利を獲得するため社會輿論をより我々の側に引きよせ當局をして益々苦境に陥し入れんが為の戦略である。しかして近く開かんとする強制調停委員會をより有利に導き我々の正しき立場よりの市電更生を實現せしめなければならぬ。我々は社會輿論の強力なる支持により有利なる展開をはかると共に、又自己陣営より調停委員會により拍力を加へ暴案を粉砕しなければならないのだ。

我等は十有二日のストを休戦し本日より一斉に乘車し就業した。社會的輿論が今回のストを如何に有利に展開せしめたかは云ふ迄もない。我々は此の輿論に答へ今後一層の有利なる情勢を作るためにも乘車に對しては一層親切丁寧を第一とし市民諸君のより我々に對する同情と支持とを得るに努めねばならぬ。特に十二日間のスキャップの運轉後に於て我々が変って運転することは其の一挙手一投足も非常に目立つのであるし特に又罷業直後に於ける昂奮は往々にして其の動作に現れる恐があるが充分注意して不遺憾なきを期せられたし。

二、中央斗爭組織と連絡委員及連絡時間に就て

(イ)首腦部三名が調停委員に選任されたので左の如く補充した。

佐伯、林越、岸岸、志倉、荻原、

(ロ)連絡委員は左の通り指名す。

三田、星名、廣尾、牧野、新宿、森林、青山、田中、南町、金子、

[redacted]

リ

以上